

「英語が話せるおかざきっ子」をめざす岡崎の英語活動

11年度からの新学習指導要領では、小学5、6年生が週1時間、外国語活動をする事になっている。岡崎市では、この移行に先駆けて、08年度から正規の教育課程とは別に毎日約8分間、DVDを教材を視聴して、英語を聞く、話す教育をしてきた。そして、10年4月から岡崎市の全小学校47校が、文部科学省から英語教育課程を市独自で組める特例校の指定を受け、「英語が話せるおかざきっ子」の育成を目指すとしている。

1. 08年度から始まった岡崎市の小学校英語活動

08年度から指導要領改訂を先取りして行われてきた英語活動は、主に3点である。

①1年生から6年生までの全学年で、8分程度の英語のDVD教材「OK English」を毎日視聴する。DVD教材は、1ユニットが3～4コマで構成され、8ユニット計30コマになっており、1年間繰り返し視聴する。一週間同じ内容を見る。

特例校の指定を受けたので、1、2年生は生活科の1時間分、3年生以上は総合の1時間分を毎日8分程度のDVD視聴の時間に充てる。生活科、総合の1時間減少分は、裁量の時間1時間を充てる。

②5、6年生は、月2時間以上のALTによる英語活動

3、4年生は、月1回程度のALTによる英語活動

1、2年生は、学期に1回程度のALTによる英語活動

③英語スピーチフェスティバルに小学生の部を新設

08年は順位を出したが、評価に無理があるとして09年から順位を出すことはやめた。

DVD教材の作成や英語活動の計画は、07年は教育課程第1部会、08年より小学校英語研究委員会（現職研修委員会学習情報部と英語部で構成）10年より英語が話せるおかざきっ子を育てる委員会と名称を変えてきた。

10年度は、75万円の予算で、小中学校9年間の英語教育カリキュラムの研究、自作英語DVD教材の改訂、読み物教材・リスニング教材の開発を予定している。

2. 岡崎市における英語活動の問題点

（1）江村教育長の強い思いで進められる

08年から毎日のDVD視聴が始まったが、岡崎の英語活動が具体的に方針として文章化されて教職員に示されてのは09年からである。09年4月に、教育長・市教委は今後の岡崎の教育について「英語教育の充実」「環境教育の推進」「岡崎の心の醸成」の3つの柱を掲げて取り組んでいくことを現職研修委員会総会や月報「岡崎の教育」等で明らかにした。「昨年度から導入した小学校英語の充実である。義務教育九か年を修了したとき、『岡崎の子供は、どの子も楽しんで英語が話せるよ』と言えるようにしたい。新学習指導要領を先行実施して外国語活動を行い、小学校から中学校までのカリキュラム作成に取り組み、学び続けるための『確かな学力』を育みたい。」（岡崎の教育09年4月号「平成21年度学校教育の視点」より抜粋）

市議会の答弁からは、教育長の「強い思い」のもと教育長主導で進められてきたことがうかがえる。

「どうしても岡崎の子供たちに英語を話させてやりたいと強い思いを持っております。そのためには、どうしても低学年から英語を聞かせなければダメなのです。私自身、前に5年間ほど週1回英語教育を小学校に導入してやった経験があります。6年間やっても十分に話すことはできませんでした。やはり発達段階というのがあって、低学年のときに英語を聞かせて耳を鍛えないと、なかなか英語を話せることができません。」「今こんなことを考えて、効率ある英語学習を進めたいと考えております。そのために、8分間のビデオ・DVDの視聴をお願いしているところであります。私の仮説によると、9年間聞けば必ず話せるようになると思っております。」（09年9月議会、江村教育長答弁）

きちんとした位置づけや計画をもとに進めてきたというよりも、教育長の体験にもとづく、低学年から毎日英語を耳にしなければダメという強い思いのもと、「DVD視聴ありき」で矢継ぎ早に進められてきたと言えよう。

（2）学校の自主性を無視した強引な指導

DVDを毎日6年間聞けば、英語が話せるようになるという仮説のもとで、「英語教育」が突出して現場に有無を言わせず下ろされて混乱を招いている。しかも、これは市教委と学校のあり方という点でも重大な問題をかかえている。

08年より英語のDVD教材を視聴しているが、09年になって視聴の仕方を点検し毎日視聴を徹底させる指導が行われた。5月に主事訪問があった学校が、DVD教材を毎日視聴していなかったところ、教育長・市教委から毎日視聴するよう強力な指示・命令が入った。そして6月の校長会では、毎日視聴することを申し合わせをして、他にも毎日視聴していなかった学校でも校長の指示で視聴するようになった。これは、市教委の指示・命令ではなくあくまでも校長会が自主的に申し合わせをしたということになっている。

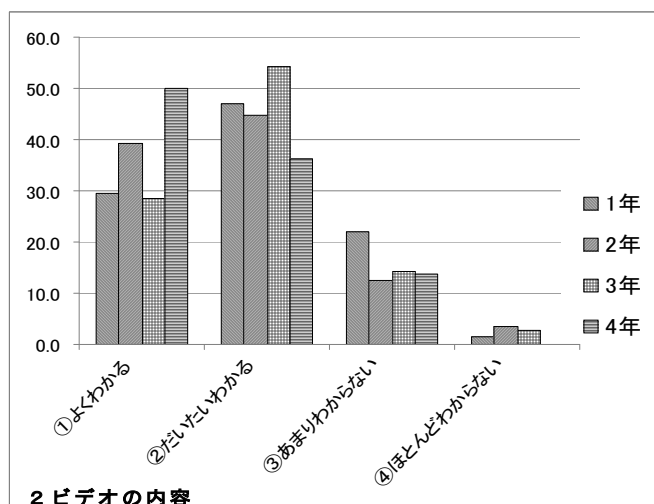
DVDを毎日視聴することで、学力向上のための学習タイムや学校独自の取り組みが縮小、廃止されたり、休憩時間が10分から5分に短縮となったり、下校時刻が遅くなったりなど様々な影響が出ている。

小学校の英語活動について、どのように取り組んでいくかはそれぞれの学校に任されるべきで、指導の方法まで画一化して、特定の学習方法を現場に押しつけることは教育委員会のやるべきことではない。市教委は、ALTや英語補助者の確保、様々な英語教材、教具の確保など条件整備をして、現場の実践が豊かになる援助をするのが役割である。教育長の強い思いを実現するために、強引に現場を従わせることは、到底認められることではない。

（3）岡崎の英語活動の根幹をなすDVD教材について

3月に1年から4年の各2学級、約300名にDVD教材の視聴アンケートを実施した。（1年生以外は、2年間DVD教材を毎日視聴してきた。）

・ビデオを視聴して楽しいと感じている子どもは、7割近くいるが、学年が上が



るにつれとても楽しいの割合が下がっている。これは、ビデオを視聴しながら一緒に英語の発音をするかという項目も同じ現象になっている。学年が上がるにつれて発音する子どもの割合が減っているのは効果が上がっているとはいえないのではないか。

・DVDの内容がわかる子どもは、学年が上がるに連れ増えてはいるが、わからない子どもが1年以外は1割強で横ばい状態である。

・英語が好きになった、英語をもっと勉強したいと思う子どもは多いが、一方で勉強したくないと思う子どもが3、4年生で2割近くいる。DVD視聴が原因で少ない子どもに、早期から英語嫌いをもたらしただろうか検証する必要がある。どの教科にも好き嫌いがいるように、あまり問題にしなくてもよいのだろうか。中学から英語を本格的に学習する前に、早くから嫌なものとして印象づけることの問題はないのか。

・1割から2割の英語視聴が嫌いな子どもにとっては、毎日8分間を6年間続けることは、相当な苦痛を与えることになる。

・英語で言えるようになった言葉は、学年にあまり差がない。特に視聴しなくても日常的に耳にするような色、数、動物などは高く、意識して覚えなくてはならないものは低い。繰り返し視聴しているとはいえ、語彙の定着は低いのではないか。

・英語が話せるおかざきっ子という目標からすると、会話力は子どもの評価はかなり低い。

＜教師の声＞

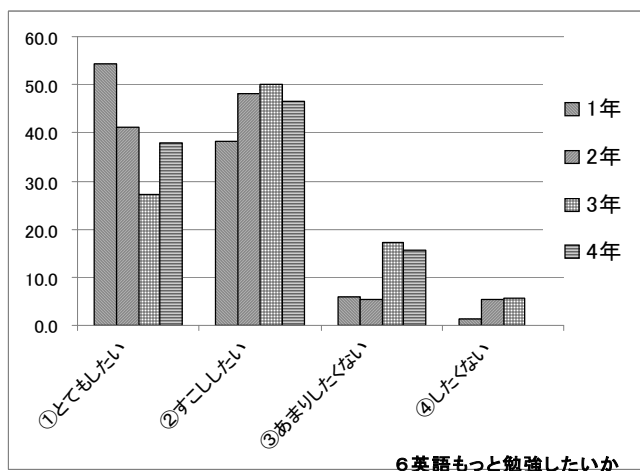
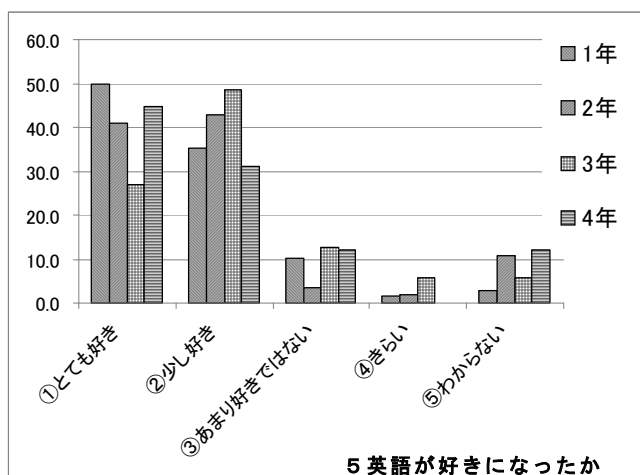
・DVD教材が市教委の指示のもと作成されたが、1年生から6年生まで視聴するにあたって、十分な検討や内容の吟味がなされているのか疑問。英語教材作成にあたった先生からも性急な指示に不安を感じているという声も聞かれる。

・DVDの中身がほとんど担任には知らされていない、子どもと一緒に見て初めて内容を知る。何を意図して何をここから子どもが学ぶのか、どういう支援を担当がするのかもわからない。極端に言えば、上からのお達しは「担任は忙しいし英語の専門でもないから、英語のテレビを子どもがしっかり見るように指導しておればよい」ということ。

・同じパターンがどのパートでも繰り返されて、大人からみるとおもしろみがない。（しかし、子どもの多くが楽しいと評価していることに調査して驚いた）

・楽しいと評価する子どもが多かったが、NHKや市販の教材を見ればどう思うかわからない。DVD教材を作成する委員の中にも、市販の方が良いと言う声が聞かれる。

・ストーリー性がなくワンパターン、工夫が見られない。



・ネイティブな発音というが、小学生を登場させてA L Tと同じくらいの時間発音させている。

・英語教育を推進する大学の先生は、反復練習ばかりになると、子どもが飽きる、英語が難しいと感じる原因にもなると指摘。D V Dは会話や単語の反復練習が多く、親しむことを中心にした内容になっていない。

・このD V Dで、話せるようになるとは到底思えない。

・視聴するだけでは、真似して発音しても、間違った発音は直してもらうことはできない。

・D V D教材は毎年新しく作成され、来年度の4作目を、低・中・高学年用に分けて現在制作していると聞く。これまで以上に時間と労力がかかり、担当の教員の負担は相当きついものであることが予想される。

（４）英語活動特例校実施計画書は豊橋の計画書を盗作？

岡崎より5年も早く、豊橋市は平成17年度から英語特区の指定を受けている。岡崎の計画書の中心部分をなす9年間のカリキュラムの「ねらい」と「取組」を見ると、豊橋市が作成した計画書とほとんど同じ文言が使われている。豊橋は英語を3年生から実施、岡崎は1年生から実施しても、3年以上のねらい、取組が全く同じというのはどういうことか。豊橋より2年も早く始めても同じならば、「小学校1、2年生では、国語教育に一層力を入れ、確かな日本語能力の育成を図り、その上で、小学校3年生から『英会話』の時間を導入」する豊橋の方が、日本語能力を高める点で良いのではないか。

結局、岡崎の目玉であるD V D教材を1年生から毎日見せるために、計画書は辻褄合わせのために豊橋のものをまる写ししたというお粗末な実態というところか。

（５）英語研究指定校への過度な期待

市が研究委嘱した学校に英語活動の成果を期待する教育長の気持ちを、市議会等公の場で強調することは、教育長が狙う成果を上げなければという大きなプレッシャーを現場に与えることになり、慎むべきである。研究は、指定を受けたとしても実践は学校の自主的な取り組みに任せるもので、教育長・市教委は、具体的内容を押しつけたり学校の実践に口出ししてはならない。

３．おわりに

岡崎市の英語活動の特色は、D V D教材を6年間毎日視聴することだろう。これで、「英語が話せるおかざきっ子」が育成されるという江村教育長の仮説と強い思いによって、小学校の英語活動の体制が整えられてきた。教育長の仮説のために、岡崎の子どもたち全てを巻き込むのは、あまりにも乱暴なやりかたであると言わざるをえない。

文科省も、英語活動の指導の仕方は一律強制せず、各学校の裁量に任せることと言っている。また、小学校の英語教育について、その是非をめぐって教職員の間でも専門家、国民の間でも意見が分かれている。教育長は「教育現場に耳を傾ける現場主義」を掲げている。それならば、自身の仮説や進めている英語活動について、現場教員の声にじっくりと耳を傾けるべきではないか。